



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙ほか. 天界 1942, 23(259)

ISSUE DATE:

1942-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168546>

RIGHT:

天 界

(第 23 卷)

第 2 5 9 號

昭和18年第 1 號

1943年の天文年鑑

索 引

天象概観.....	1
曆	
編曆週期いろいろ.....	1
現行各種曆年の始めの日}.....	2
祝祭記念日, 24節, 雑節}	
太 陽	
日出日没表(大阪にて).....	3
運 行 表.....	4
カリントン太陽自轉期.....	20
月	
月相, 舊曆朔日, 山本月相.....	3
月出月没表(大阪にて).....	5—7
月の遠近.....	22
日蝕と月蝕.....	8—10
大遊星の運行圖.....	表紙2

水 星.....	11
金 星.....	12—13
火 星.....	14—15
木 星.....	16—17
土 星.....	18—19
天 王 星.....	20—21
海 王 星.....	22—23
冥 王 星.....	24
彗 星.....	24—25
流 星.....	26
北 極 星(α UMi) }.....	27
破 軍 星(η UMa) }	
天文カレンダー(1月—12月).....	28—39
注意 (凡例)	27
説き明かし.....	40

1943年

大遊星の運行について

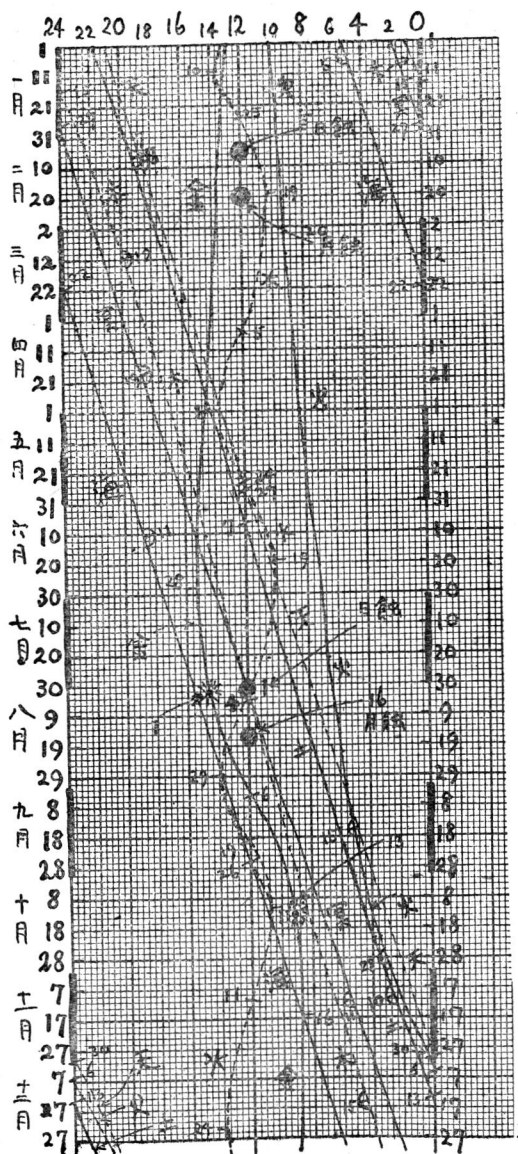
1943年の年頭は、日没後の天頂に土星と木星とが輝いて、冬の星座の空を一段と美化する。望遠鏡を持つ人々は、寒さを凌いで、この美観を楽しむ時である。低い西空には久しぶりで水星と金星も現れるけれど、これは臺灣以南の低緯度の地で見るのが宜からう。

金星は年初よりも、年の中頃になるに従ひ、宵空の高度も光輝も高くなり、晩春初夏の頃は燦然として大空に君臨する。そして八月末忽然として姿を消し、九月初め内合となり、同月末からは暁天の光明となり、年末まで東空を飾る。今年の金星は實にスバシイ景観を呈する。

今1943年の第二の美観は土星の接近である。土星は年初から追々と近づいて来るが、年末の頃、天頂に近い牛座に於て、逆行すると共に、光輝は -1.7 級となり、終夜の空を賑はす。2年ぶりで専門家の活躍が期待される。

今年は又、土星の輪が15年ぶりで最大の幅(21")に達し、現視光度が年末には -0.3 に達する。土星と天王星とは昨年に比べて多少離れたけれど、しかし、木星や土星と共に、やはり昨秋秋冬の賑やかな星座の空は更に一段と美しく飾ることとなる。

注意：此の圖は各遊星の南中する時刻を示すために、各月各日についてカーヴを描いたものである。慣れれば重寶なものであることが知つて貰へると思ふ。



頒布印刷物目錄

題 目	執 筆 者	定價	送料
○變 光 星 報 告 (14年度前半)	倉 敷 天 文 臺	10	4
○ 〃 (14年度後半)	〃	10	4
○流 星 觀 測 入 門	小 槇 孝 二 郎	20	4
○流星群の速度決定の一方法	〃	10	4
○標 準 天 文 學	山 本 一 清	2.00	20
○ガ リ レ オ 傳	〃	30	4
○印 度 洋 航 海 日 誌	〃	20	4
○學 術 と 宗 教	〃	40	4
○標 準 時 に 就 い て	〃	10	4
○中等學校に於ける天文教材論	〃	30	4
○臺 灣 日 蝕 紀 行	井 本 進	15	4
○遊 星 惑 星 源 流 考	〃	15	4
○對日照の變化に就いて	醍 醐 正	10	4
○1939年度火星協同觀測結果報告	伊 達 英 太 郎	20	4
○1941年度對衝に於ける火星協同觀測結果報告	〃	30	4
○計算圖表に依る變星光度計算	内 藤 一 男	15	4
○星 か げ (歌集)	錦 織 久 良 子 編	1.20	12
○滿洲の氣候と天上の花	水 野 千 里	30	4
○彗 星 總 目 錄 (英文)	山 本 進	非 賣 品	
○1921年のボンキンネケ 彗星に附隨せる流星觀測 (英文)	山 本, 中 村	20	4
○北ボルネオの星名と説話	野 尻 抱 影	10	4
○梅小路天文臺跡訪問記	渡 邊 敏 夫	10	4
○觀 測 手 引 (全 章)	中 村 覺 (編)	1.00	不要
○携帶用寫真眼鏡兩用反射鏡に關する試作概況	藤 波 重 次	20	4
○黑點の相對數式觀測法に就て	大 石 辰 次	10	4
○昭和16年度太陽課綜合報告	〃	10	4
○シンクロノームの新天文時計	高 城 武 夫	20	4
○緯 度 觀 測 事 業	木 村 榮 (述)	10	4
○太 陽 面 經 緯 度 圖 (8枚一組)	山 本 一 清 監修	50	4
○簡 易 星 圖	〃	20	4
○草 場 恒 星 圖 (解説書付)	〃	50	4

天 文 寫 真 第 1 輯 (既刊16種) 本 會 (一枚) 1.40 不要

天 文 寫 真 第 2 輯 (〃 3種) 〃 〃 1.00 不要

天 文 寫 真 第 3 輯 (〃 2種) 〃 〃 6.00 不要

新撰天文エハガキ (一組8枚) {コロタイプ版 〃 30 4
 {プロマイド版 〃 1.50 4

1941年皆既日蝕山本博士放送錄音 (一枚2面) 〃 2.00 30

天文寫眞 (第1輯)

説 明 書

1. **土 星** 天界に於いて最も美しい姿は實に土星と其の輪である。これは故ペーナード博士がリク天文臺に滞在中の一夜、口径92センチの大赤道儀望遠鏡により、其の銳眼の視力を盡して最も精密に觀測したものであつて、現代の寫眞術では到底及ばない正確な形を現はしてゐる。土星は木星と共に、太陽系中の最大遊星の一つで、直径は地球の10倍あり、輪は更に其れに數倍する。この輪は無數の微塵星が羅列して主星のまわりを廻つてゐるものである。
2. **ペル | 日蝕のコロナ** 昭和12年(1937年)六月8日、南米ペルー國ワンチャコ村の海岸で、山本一清博士指導の下に、柴田・堀井兩理學士が撮影した皆既日蝕のコロナの寫眞である。カメラは焦點距離9.7メートル、露出は10秒であつた。空は殊に美しく晴れわたり、幾萬の群集は此の壯觀を西の空に滿喫したものであつた。
3. **フィンスラ彗星** 昭和12年(1937年)の七月初め、スキスの天文家フィンスラ氏に發見された此の彗星は、近年稀に見る見事な尾を引いて、北天に現はれ、全世界の天文ファンを喜ばせた。之れは米國パロマ山上の新天文臺に於いて、口径45センチ(焦點距離90センチ)のシミト・カメラにより撮影されたもので、寫眞の右上部に彗星が大きく現はれ、又左上部の大きい星は、ペルセ座のア星、下中部の星は同座テ星である。其の他の星々は詳細な星圖と比較して頂きたい。寫眞の上は西、下は東、左は北、右は南である。普通の彗星寫眞は長時間の露出を要するため、恒星が皆線になつてゐるのだが、此の寫眞は強力なシミト・カメラで短時間の露出であつたため、星は皆點像である。
4. **アインシュタイン博士** 相對原理の創案者であるアルベルト・アインシュタイン博士は數理天文學界に於ける現代の最大巨星である。1879年(明治12年)ドイツに生れ、スキスとドイツとで研究に従事したが、今は米國プリンストン大學の特別講座を主裁してゐる。此の寫眞は近年、オクスフォード大學で名譽學位を受領し、尙ほ、ロイツ記念講演をした際、學位服に盛裝した姿である。
5. **小マゼラン星雲** 天の南極から16度の距離で、巨嘴鳥(トウカン)星座の東南隅にある。此の「小マゼラン」の星雲は、それより遙か東方(旗魚(かじき))星座にある「大マゼラン」星雲と共に、天の七不思議の一つである。天の河からは35度も離れてゐるから、全く無關係のものであるけれど、見たところは、やはり天の河の一部が干切れて飛んだかのやうに、天空に輝き、全體の廣がりは東西も南北も共に約3度以上にも及ぶが、しかし其の南西部に最も多くの星が密集し、それから北東へ微星や大小の星團が連續してゐる。この星雲は吾が太陽系から約95,000光年の距離にあつて、直径は6,000光年もあるし、又、其の中には幾十萬の恒星と共に、約800個の變星と、40餘の球狀星團や星霧を含んでゐるから、優に之れは一個の小宇宙である。寫眞の東端にある大星團はトウカン座の47番と呼ぶ有名な天體である。このマゼラン星雲は臺灣よりも南方に於いて毎年秋の夕刻に見えるものである。

東亞天文協會規則

(1941年五月改正)

- 第1條 此ノ會ヲ東亞天文協會ト言フ。
- 第2條 此ノ會ハ天文學ノ研究發達及ビ其ノ了解ヲ進メ、兼ネテ會員相互ノ親睦ヲ増スノガ目的ナル。
- 第3條 此ノ會ノ本部ハ田上天文臺ニ置ク。又會員密集ノ地ニハ支部ヲ置キ、別ニ定メテアル支部規約ニ準據スル。
- 第4條 此ノ會ハ其ノ目的ヲ達スル爲メ次ノ事業ヲ行フ。
1. 例會(毎月1回)、總會(年1回)。
 2. 講演、講習(各地テ隨時ニ開ク)。
 3. 雜誌圖書ノ出版(雜誌ハ毎月1回發行、會員ニ無料配布、圖書ハ隨時)。
 4. 研究見學及ビ觀測指導。
 5. 天文臺、博物館等ノ經營(會員ニハ特權ガアル)。
- 第5條 此ノ會ハ其ノ事業ヲ遂行スル爲メ次ノ各部ヲ置キ、各部ノ業務ハ會長ノ囑託シタル部長、副部長、幹事が當タル。
- 庶務部、教育部、報導部、出版部、觀測部、事業部、經理部
- 第6條 此ノ會ノ趣旨目的ニ賛成スルモノハ誰モ入會ガデキル。(入會申込ノ際ハ住所職業出生年ヲ申シ述べラレタイ)。會費ハ1ヶ年ニツキ4圓80錢トスル。但シ中途入會ノ場合ハ月45錢ノ割合ニテ年末マデ前納スルコト。又、退會ノ場合ハ其ノ旨ヲ申シ出ルコト。
- 第7條 此ノ會ノ經營ヲ支持スル趣意テ毎年20圓以上ヲ齎出スル者ヲ維持會員トスル。
- 第8條 此ノ會ニ一時金200圓以上ヲ寄附スル者ヲ終身會員トシ、爾後ノ會費拂込ミヲ要シナイ。
- 第9條 此ノ會ノ總會ニ於テ特ニ推薦セラレタル者ヲ名譽會員トスル。
- 第10條 此ノ會ノ事業ヲ妨ゲ、體面ヲ汚ス會員ハ除名スル。
- 第11條 此ノ會ニハ顧問若干名ヲ置クコトガアル。
- 第12條 此ノ會ノ役員ハ次ノ通りトシ任期ハ2ヶ年トスル。
- 會長 1名 (會長ト副會長トハ理事會ノ推薦ニヨリ總會ニ於イテ推戴スル)
副會長 2名 (ル)。
- 理事 若干名 (總會ニ於イテ會長ガ指名スル)。
- 第13條 此ノ會ニハ會長ノ囑託シタル評議員若干名ヲ置キ、會長ノ相談役トナリ、其ノ任期ハ2ヶ年トスル。
- 第14條 此ノ會ニハ會長ノ囑託シタル地方委員若干名ヲ置キ、地方ニ於ケル研究指導及ビ會ノ發展ヲ計ル。
- 一以 上一

觀測用印刷物

○太陽黑點報告用紙	(1枚 3錢)	本 會 事 務 局 宛
○太陽面經緯度圖 (第1—8圖)	(1組 50錢)	
○流星觀測用星圖 (第1—6圖)	(各1枚 3錢)	流 星 課 長 小 楨 孝 二 郎 宛
○流星觀測報告用紙	(1枚 2錢)	
○變星觀測用星圖	(1枚 10錢)	本 會 事 務 局 宛
○變星觀測報告用紙	(1枚 2錢)	
○黃道光觀測用星圖	(1枚 3錢)	黃道光課長 山 本 一 清 宛
○黃道光觀測報告用紙	(1枚 3錢)	
○木星スケチ用紙	(1枚 5錢)	遊星面課長 伊 達 英 太 郎 宛
○火星スケチ用紙	(1枚 5錢)	

(送料各2組又は5枚迄4錢)

東亞天文協會發行 新撰天文エハガキ 一組8枚 コロタイプ版 36錢 ㊤ 4錢
 ブロマイド版 150錢 ㊤ 4錢

1. **木星面**：昭和12年，會員渡邊恒夫氏が花山天文臺の30 \times の赤道儀にて觀察したまゝの形象を畫いたものである。木星は太陽系のメンバ中の最大遊星で，東西の直徑が地球の11倍あり，質量は318倍もある。自転週率は9時間50分餘であるから，遠心力が強くて，赤道部がふくらんで，橢圓形になつてゐることが此の畫でも明らかである。表面はアムモニヤ，メタンガス等の大氣が流動し，氣流の模様もよく見えてゐる。木星は衛星が11ヶあるが，其の中の4ヶは小望遠鏡でも容易に見える。
2. **皆既月蝕の寫眞**：昭和14年五月3日東洋方面で久しぶりに見えた月蝕皆既の現象を本會員清水眞一氏が撮影したものである。此の寫眞は月の附近に見える一恒星にカメラの方向を固定して，蝕の始めから終りまでの間に8回の短時間露出したものであるから，月が此の間に西から東へ運行して行つた模様も明らかに見えてゐる。又，月を蝕した影の全形によつて地球の大きさや形も窺ひ知れる。
3. **火星のスケチ**：大正15年の秋に火星が地球へ近づいた時を利用して，會員(故)中村要氏が十一月2日と同8日に京都大學の3 \times 望遠鏡で觀察したものである。此の頃，火星の視直徑は約20秒角，火星の世界は初春の氣候で，北極の氷雪が未だ大きく廣がつてゐる。
4. **ドナチ彗星**：安政5年(1858年)の春，牧夫座に驚くべき大彗星が出現し，一等級のアリクトウルス星と光を競つた。此れは其の時の景觀を畫いたものである。此の彗星は數ヶ月にわたり全世界の何地からも見え，人々の興味をそゝつた。
5. **南十字座附近の寫眞**：南洋に旅する人の憧れは此の“南十字”の星座を見ることである。春の夕暮れの南の空に，天の河の一部を占めた此の星座は，四つの輝星が美しく愛らしい十字形にならんで，深い印象を人の心に植えつける。このあたり，天の河の星も殊に夥しいし，星座の東南隅には“炭袋”と俗に呼ばれる暗黒雲も見えて，複雑な宇宙構造をマザマザと表はしてゐる。
6. **太陽黒點の大寫し**：昭和13年十一月9日，黒點活動の極大中の一、會員伊達英太郎氏が朝8時の快晴の空を利用し，口径11 \times の反射鏡で撮影したものである。黒點のいろいろのみならず，之れと入り亂れて白斑も夥しく現はれ，活氣横溢の太陽面を見せてゐる。此の寫眞の比例では，太陽全體の直徑が60 \times ぐらゐになつてゐるから，其の109分の一を地球の大きさと考へて見ると，黒點の眞の大きさをハッキリ知ることが出来る。
7. **冥王星**：世紀のレコード“冥王星の發見”は昭和5年(1930年)三月にロイエル天文臺に於いて行はれた。發見者は青年學者トムボリ氏，器械は口径30 \times の寫眞望遠鏡であつた。此の寫眞は其の發見當時のもので，矢に示されたのが冥王星，右端の大星は双子座アルタ星である。冥王星は光度15級，其の直徑は地球よりも遙かに小さく，昔の海王星の一衛星であつたと思はれる。
8. **ギクトリヤ天文臺の183 \times 反射鏡**：太平洋東北岸のギクトリヤ市郊外に1918年建設された天文臺は此の大反射鏡の活用を主目的としたものであつたが，爾來二十數年間恒星のスペクトル分析と運動速度の觀測に非常な効果を擧げ，現今は遂に之れが大反射鏡の模範型と目せられ，パーキンス，ラドクリフ，マクドナルド等の新天文臺も皆此の型式の反射鏡を採用してゐる。

地 方 委 員 () は 電 話

塚田 豊治	札幌市、札幌第一中學校	田村 文造	大阪市東淀川區長柄西通1の14
川崎 俊一	岩手縣水澤緯度觀測所(水澤1)	井伊 秀勇	大阪府豊中中學校(岡町118)
池田 徹郎		井 本 進	兵庫縣武庫郡本山村岡本高石
内藤 一男	群馬縣太田町東長岡甲851	伊達英太郎	„縣川邊郡雲雀丘(池田2546)
渡邊精吉郎	東京市杉並區落窪1丁目17	村山 辨次	西宮市今津町水波103
古畑 正秋	„ 上野公園科學博物館内	吉田源治郎	„ „ 高潮67
五藤 齋三	{ 世田谷區三軒茶屋143 (世田谷4338)	改發 香塙	神戸市須磨區關守町(須磨140)
富田弘一郎	„ „ 區玉川用賀2の1097	荏 部 進	„ 灘區高羽ソワ山(御影3546)
山崎 正光	„ „ 區上馬町1の763	美田 爲三	„ 須磨離宮西町1の23(須磨938)
小泉 功	„ 中野區江古田1の176	神田 壹雄	„ 林田區荊藻通1ノ8
小穴 匡雄	„ „ 區新井町609	神屋 信一	姫路市北平野町74
土居 客郎	東京市芝區南佐久間町2の4	宮 原 節	岡山市國富本町476
稻垣 武五	„ „ 區田町6の19	原 澄治	倉敷市本町(75)
上條 清人	松本市榮町	本 田 實	„ 住吉町、倉敷天文臺
中 澤 登	長野縣埴科郡東條村	森本 慶三	津山市山下(157)
沓掛 七二	„ 小縣郡青木村村松	松本 義一	尾道市久保町1453の1(752)
清水 眞一	静岡縣島田町(159)	眞田 安夫	廣島市白鳥東中町71
大石 辰次	„ 志太郡吉永村吉永1768	村上 忠敬	廣島高等師範學校
荒木 九臯	新潟縣長岡高等工業學校	惠藤 一郎	山口市縣立教育博物館(294)
細 野 貞	新潟市古町通り三番町	飯 義 壽	今治市片原町(54)
小澤 喜一	名古屋市西區西萬町3	長主 從朗	福岡縣稻築町、三井山野病院
河路甲午郎	津市、三重高等農林學校	古賀 和吉	大牟田市通町2(2264)
小楨孝二郎	和歌山縣有田郡金屋(金屋30)	有田 邦雄	長崎報時觀測所(580)
坂元 鐵馬	奈良市法蓮寺町1095	池田 一幸	熊本市東坪井町39
木邊 成磨	滋賀縣野洲郡中里村(中里30)	森下 功	„ 花園町柿原
山本 進	„ 草津町大路井420	吉田千枝子	臺灣高雄州旗山526の3
垂井増太郎	京都市明倫國民學校(本2236)	松本 武男	„ 彰北高女()
宇野 良雄	„ 上京區紫竹下芝本町72	吉村 昌久	臺北市公會堂事務所
吉岡 久男	„ 出雲路立本町14	蔡 章 猷	„ 入船町1の52
百濟 教猷	大阪市南久太郎町4丁目17	中埜 哲郎	朝鮮城津府本町87の13
西川 英男	„ 住吉區阪南町中3丁目	櫻井清太郎	{ 南洋ボナベ島コロニヤ町 熱帶産業研究所ボナベ支所
前田徳次郎	„ „ 田邊東の丁4の26	河合 孝一	大連市滿鐵本社福祉課共濟係
山崎 幸夫	„ „ 帝塚山中4丁目	橋田 義壽	„ 錦町1の19
小尾 榮松	„ 安土町2丁目(本805)	後閑 茂樹	滿洲國撫順新屯國民學校
高城 武夫	„ 西區四ツ橋 電氣科學館(新町1)	角田 清彦	{ 中華民國、北京、石駱馬大街 21號、北京新民報社
佐伯 恒夫		津野田誠吾	中華民國汕頭病院
青木 章	„ „ 東區大手前高女(東41)	熊田 儀助	(在米)
宮森 作造	„ „ 東區大手前高女(東41)	高村 正兄	(在米)

地 方 委 員 規 定

第1條 地方ニアル會員中ノ有志者ヨリ特ニ適任者ヲ推舉シ地方委員トスル。

第2條 地方委員ハ本會ノ主旨ニ基キ、其ノ諸事業ヲ援助シ又一般會員ヲ指導獎勵スル。

東亞天文協會

—大正9年(1920年)創立, 昭和7年(1932年)改名—

會長 山本一清
副會長 宮森作造
理事 宮森作造
專務理事 中村覺
教育部長 高城武夫
報導部長 山本一清

小槇孝二郎
觀測部長 木邊成麿
經理部長 宇野良雄
理事(無住所) 美田爲三

本部所在地 田上天文臺 滋賀縣栗太郡上田上村
事務局所在地 滋賀縣堅田局區內
經營する天文臺 倉敷天文臺 岡山縣倉敷市
大阪支部所在地 大阪市立電氣科學館プラネタリウム (大阪市四ツ橋)
臺灣支部所在地 臺北市公會堂內
黃道光觀測所 廣島縣沼隈郡瀬戸村

東亞天文協會觀測部

1. 流星課 (課長 和歌山縣有田郡金屋 小槇孝二郎, 幹事 宇野良雄)
 2. 彗星課 (課長 滋賀縣草津町大路井420 山本 進)
 3. 變星課 (課長 木邊成麿, 幹事 小澤喜一)
 4. 太陽課 (課長 缺, 幹事 靜岡縣志太郡吉永村吉永1768 大石辰次)
 5. 黃道光課 (課長 田上天文臺 山本一清, 幹事 倉敷天文臺 本田 實)
 6. 豫報課 (課長 山本一清, 幹事 神田臺雄)
 7. 機械課 (課長 滋賀縣野洲郡中里村 木邊成麿)
 8. 寫真課 (課長 大津市鹿岡町 堀井政三)
 9. 遊星面課 (課長 伊達英太郎, 幹事 佐伯恒夫, 木邊成麿)
- 火星班 (班長 兵庫縣川邊郡雲雀丘 伊達英太郎)
木星土星班 (班長 大阪市四ツ橋 電氣科學館 佐伯恒夫)
水星金星班 (班長 木邊成麿)
10. 掩蔽課 (課長 大阪市住吉區萬代東4の6 高城武夫)
 11. 月面課 (課長 伊達英太郎)
 12. 歷史研究課 (課長 兵庫縣武庫郡本山村岡本高石344 井本 進)

觀測部規定 (昭和6年11月22日制定)

- 第1條 本觀測部ハ東亞天文協會ノ目的ヲ達スル爲メノ一事業トシテ, 天體ノ觀測研究ヲ行フ。
- 第2條 第3條, 第6條 (略)
- 第4條 東亞天文協會員ハ希望ニヨリ本觀測部員トナル事ガ出來ル。
- 第5條 部員ハ觀測上ノ必要ニヨリ課長ノ指導及ビ東亞天文速報(舊名ブレテン), 東亞天文協會急報並ビニ種々ノ印刷物ノ配布ヲ受ケル。

天界 第259號

昭和17年11月28日印刷
昭和17年12月1日發行

〔定價金40錢〕 送料金1錢

編輯兼發行所 滋賀縣滋賀郡眞野村大字眞野513
印刷所 京都市上京區上槇木町千本東入
配給元 東京市神田區淡路町二丁目九番地

東亞天文協會 (代表者山本一清) (振替大阪56765)
(日本出版文化協會第2種會員(第220038番))
眞美印刷所 橋本岩太郎〔電西陣3702〕
日本出版配給株式會社